自　然　観　察　　2022 年 10 月 15 日発行／第 138 号　　年 3 回発行

自然観察

No.138
2022.10 月

目　　次

- ウオッチングレポート ……2
- 2022 全道研修会実施報告、全道研修会に参加して ……6
- 第 588 回 NAC-J 自然観察指導員講習会・北海道実施報告 ……9
- 2022 フォローアップ研修会実施報告 …… 11
- 観察部からのお願い「来年度観察会企画募集について」 …… 15
- 出版物の紹介 …… 15
- 編集後記・連絡先…… 16

「ウワミズザクラのみ実を食べるメジロ」　（蘭越町 9 月）

ウオッチングレポート

札幌市　「精進川」観察会（番外編）　2022/05/29

札幌市　佐野　由輝、鈴木　ユカリ

昨年の札幌扇状地の続きになりますので、北海道立総合研究機構の廣瀬亘氏からは、天神山周辺の自然と地形を、参加された方と共に感じながら楽しめました。また、たくさん質問していただいたことで、より深い学びを得る機会となりました。地域の歴史や土地の成り立ちなど、さらなる学びへつながることを期待しています。百万年スケールで形成される地形・地質の観察を廣瀬氏が、数千年スケールで形成される森林土壌と、数百年スケールで形成される植生の観察を私（佐野）が担当しました。

まずはカツラやミズキなどの新緑まぶしい樹木を観察しながら、澄川駅から精進の滝へ移動しました。廣瀬氏による地質の話の後に、川の働きによって浸食された急斜面に生える広葉樹の仕組みや斜面崩壊を食い止めている樹木の根の働きについて話をしました。続いて天神山に移動し、近代以降、河川の氾濫が激減したことにより大径木化したドロノキの観察や、竹串を使って森林土壌の深さを体験してもらいました。その後相馬神社にお邪魔し、ご神木であるクリの大木を見に行きました。推定樹齢 300 年、巻尺で測ると幹回りが 4 メートルを超えていました。天神山の山頂から、札幌の発展の歴史を見守り続けてくれているんでしょうね。

最後に屋内に移動して森林の土と草地（芝生）の土の透水実験を行い、いかに森林の土が透水性と保水性に優れ、その結果洪水や土砂崩れから私たちの生活を守っているかを実感してもらいました。

霧雨で寒い中、お越しいただいた皆様有難うございました。

苫小牧市　「初夏のウトナイ湖」観察会　2022/6/4

苫小牧市　谷口　勇五郎

コロナ禍のため２年中止していましたが、少し感染が減少してきたので、こぢんまりと実施しました。告知は１社のみ、手指消毒、マスクの着用、昼食は取りやめました。

道端の野草から案内を始めました。まもなく、エゾアカヤマアリのアリ塚が 10 個ぐらい並んでいます。これや、アリの実態について説明しました。ヤマグワの花が終わり、実がつきだしています。数年前に市道わきの林が 50m ぐらいの幅で、300m ぐらい伐採されました。キビタキが鳴いていたのですが、林がなくなり電線でビンズイがさえずっています。

林に入ると林床にはチョウセンゴミシがいたるところに生え、花も終わりかけていました。小さなヤチダモの葉が少し内側に巻き込んだ部分が数か所ありました。広げるとトドノネオオワタムシの羽の生えたものが隠れていました。ミヤマザクラは散り、ワタゲカマツカはつぼみでした。エゾハルゼミの合唱とツツドリやウグイス。センダイムシクイの声がしていました。

札幌市　「平岡公園」観察会　2022/6/5

札幌市　佐藤　佑一

今年１回目の観察会です。17 名好天に恵まれ出発しました。

コース出現順に主に花です。ハルジオン、シナノキ、オオバボダイジュ、アオダモの赤い実、ホオの花に鼻を突っ込み、ツリバナ、ジンヨウイチヤクソウ、ミヤマザクラの実、サワシバ大豊作の実、ギンラン、ツルアジサイ、ハクウンボク、エゾキスゲ、エゾカンゾウ、サギスゲ、カキツバタ、サワフタギなど、少しうるさいぐらいのエゾハルゼミ、オオルリ、キビタキ、センダイムシクイ。カメラマンの話で、カワセミが１時間ぐらいおきに、戻ってくるそうです。

上空には、餌運びに忙しいアオサギ、次回はカワセミの若鳥も、さらにカイツブリも、皆で見られるといいですね！

札幌市　「平岡公園」観察会　2022/7/3

札幌市　佐藤　佑一

予想最高気温 29℃、出発時ギラギラ太陽。熱中症が心配。コースを木陰が多くなる様にしました。

コエゾゼミ、エゾハルゼミのうるさい位の頃ですが全然鳴いていません。オニヤンマ、オオカワトンボ、ヨツボシトンボも例年の 1/10 位です。

花はヒツジグサ、オニシモツケ等、木の実はヤマグワ、ミヤマザクラ、ヤマブドウ、サワフタギ、アオダモ、ミズキ等を確認。コロナの為、2年間観察会は休止していましたが、虫の減少が、かなり気がかりです。

小樽市　「蘭島海岸と忍路」観察会　2022/7/3

小樽市　吉田　陽子

小樽市の最高気温３１度を記録した中、参加者が熱中症などの体調不良を起こさないように配慮しながらの観察会でした。トイレがスタート地点と、途中の蘭島海水浴場の有料トイレしかないため、水分摂取控えが心配で都度飲水の声掛けをしながら進行しました。

ハマヒルガオ・コウボウシバ・コウボウムギ・オニハマダイコン・オカヒジキ等、過酷な環境で生きる海浜植物の特徴を観察しました。海水浴場終点から忍路へ向かう観音坂へ入ると樹木の木陰が気持ちよく、峠の頂上付近で振り返ると蘭島の海岸や余市シリパ岬、遠く積丹方面の半島が見渡せました。峠途中でイチゴ栽培農家の方のご厚意で畑に入らさせて頂き、希望する参加者の方が（１００円の自己負担で）イチゴ狩りを楽しみました。自宅でのイチゴの栽培方法を尋ね地元農家の方と交流している方もいました。採りたての甘いイチゴが美味しかったとの感想が聞かれました。

コース上ではキク科の頭花の特徴をブタナで観察、エンレイソウ・オオウバユリ・ヤマグワ・ミツバアケビ・マタタビ・スモモ・ミゾソバ等を観察。忍路湾では、海底火山に由来する枕状溶岩やハイアロクラスタイトについて指導員から説明しながら観察。忍路が 1000 万年前～500 万年前の海底火山活動の中心地であったことに思いを馳せ、国際的にも大変貴重な地質を間近で観察しました。

反省点の一つは熱中症を警戒する余り、炎天下の海水浴場での植物観察時間を短くした結果、忍路神社の神輿が手漕ぎ船に乗り、湾内を一周する正午まで一時間余り早く忍路湾に到着してしまった事。暑い中時間まで待って見学された方はおらず、皆さん早々に帰宅されました。

苫小牧市　「夏の錦大沼」観察会　2022/7/10

苫小牧市　白崎　均

今回、参加者は少なかったが、皆さん植物に対する観察力、理解力が深まり、レベルの向上が素晴らしいです。

理解が増えると、自然を大切に、大事にする力が増えて来るし、また個人だけに収まらず、友達や家族、知人にと、どんどん増えていくと思います。楽しみにしたいと思います。

札幌市　「菅原農園」観察会　2022/7/10

札幌市　鈴木　ユカリ

開始二時間前まで雨が降っていましたが、天候が回復し、熱中症が心配されるほどの炎天下の中開催しました。

下は三歳から上は高校生までという幅広い参加者が集まりました。佐野指導員からは初めて素足で田んぼに入ったという子供も多く、ぬるぬるした感触を楽しみながら、夢中になって網で田んぼの泥をすくっていました。見つけた生きものは、トレーに入れて、皆で観察しました。

見つかった生きものは、ホトケドジョウ・エゾアカガエル・マツモムシ・ガムシ・ミズカマキリ・トンボのヤゴ等々。皆さん、田んぼの中にたくさんの生き物が住んでいる事に驚いていました。

最後に食物連鎖の話をして、生き物はみんな繋がっていること。生物多様性が保たれているから水がきれいであることを確認しました。

以上ですが、後半に虫刺されがあり、（会として適切な処置を行う）改めてリスクマネージメントの重要性を感じた観察会となりました。

千歳市　「秋の紋別岳山麓」観察会　2022/9/3

恵庭市　林　祐子

コロナや雨の影響でここ数年開催できなかった紋別岳山麓の観察会ですが、今回は天気に恵まれて行うことができました。

参加して頂いた方の「あれはホオノキかトチノキか？」、という答えを探すところから観察会は始まり、ハリギリ・イタヤカエデ・ハウチワカエデ・ヤマモミジなどの手の形をした葉の観察、ウダイカンバとダケカンバの葉や幹の観察を行いました。また、大きなカバの木の根元の小さなカエデがどう成長するのだろう？という疑問を頂きましたので、木の成長についてもあれこれ想像を巡らせながらみんなで話をしました。

他に、ミソガワソウやエゾクロクモソウ、たまたま見つけたオニルリソウの観察なども行いましたが、今回の観察会は木が中心となりました。

札幌市　「平岡公園」観察会　2022/9/4

札幌市　佐藤佑一

少し暑いぐらいの晴天です。秋の実りを見に行きます。

平年作のミズナラ、コナラ、ハリギリ、タラ、オオバボダイジュ等。良作のヤマブドウ、コクワ、ズミ等。不作のアオダモ、ヌルデ、イヌエンジュ、サワフタギ、ミズキ等。平岡では珍しいキノコでミヤマトンビマイの他タマゴタケ、テングタケ等。

花は見ごろのヤブマメ、オオバセンキュウ、オオミゾソバ等。そろそろ終わりのヒツジグサ、クサレダマ、サワギキョウ、エゾミソハギ、ヤノネグサ。

最後の頑張りで、オニヤンマ、シオカラトンボ、オオルリボシヤンマ。以外に大きいクルマバッタモドキ、ゆったりと優雅なオオヒカゲ、そしてコムラサキ等。楽しいひと時でした。

2022 全道研修会実施報告

研修部

1．テーマ　「自然度の高いポロト湖の森、駒ヶ岳を望む湖沼の自然、歴史あるヒバやブナの森を尋ねる研修会」

2．日程　　６月１０日(金)～６月１２日(日)

3．場所　　道南ブロック：胆振・後志・檜山・渡島方面

(1)ポロト自然休養林(白老町)
(2)大沼国定公園(七飯町)
(3)土橋自然観察教育林(厚沢部町)
(4)歌才ブナ林(黒松内町)

4．参加者　5名（会員男性３名、女性２名）　地域別～旭川１、札幌１、恵庭２、遠軽１）

5．協力会員・関係機関
(1)ポロト自然休養林(白老町)観察･･･案内：谷口勇五郎会員(苫小牧市)
(2)駒ヶ岳火山・防災講話：森町役場防災交通課長柴田 正哲(まさあき)氏
(3)土橋自然観察教育林･･案内：厚沢部町教委社会教育課学芸員富塚龍氏
(4)後志の自然ｱﾗｶﾙﾄ講話：大表章二会員(蘭越町)
(5)参加会員交流：「自然に遊ぶ」村元健治会員著書紹介、他参加者実践交流
(6)歌才ブナ林観察(黒松内町)･･案内：町ブナセンター学芸員 斎藤 均氏

6．研修を終えて

今回の全道研修会(道南ブロック)は、従来のブロック研修を内容統合し、隔年実施開催で道内５ブロック輪番制最後の開催であった。

コロナ禍対応による宿泊人数や食堂営業時間短縮など、制約のある中で、最少人数での開催となった。しかし、現地会員や関係機関専門員の協力、更に参加会員の知見を活かした適宜交流により、各地の特異な植生を把握するなど、研修幅を広げ、事故なく所期の目的に近づけることが出来たことは、誠に幸いである。

今後は、本会の組織目的や課題を斟酌し、意義ある研修会の形態を模索しつつ、可能な範囲で推進を図るべきであるとも、帰途参加者の笑顔を拝見しながら感じた次第である。

（相原　繁喜）

ポロト自然休養林

大沼国定公園（夕陽の道）散策

後志の自然・自著図鑑等の紹介
（歌才自然の家、大表章二理事））

歌才ブナ林（林内、斎藤均学芸員案内）

全道研修会に参加して

原部　剛

天気に恵まれ、今回も充実した内容の３日間だった。白老のポロト湖、大沼公園は会員による植物観察、厚沢部の土橋教育林、黒松内のブナ林は地元の方の案内人による樹木観察。道南の植物、樹木の観察は初めて経験できた。

土橋教育林では、「ヒバ爺さん」と言われる樹齢 500～600 年の大木を見た。特に心に残ったのは、光を求めて競争する木々の姿、黒松内の学芸員の方の説明(ゆったりとした話し方)である。写真は、大沼公園での光を求めてる枝の生命力である。(研修会参加の方が写っておりますが、お許しください)

この研修会では、観察会だけでなく、活動されている会員のつながり、頑張りも勉強になった。ポロト湖で解説をいただいた谷口勇五郎さん、夜の大表章二さんの蘭越での活動のお話。研修会参加の編集部長の村元さんは、子供の頃の実体験に基づく自然の中での遊びを著書にまとめられている。参加の久瀧さん、林さんも地元で活躍されている。

また、夜、自然観察協議会の現状、指導員資格があっても観察会に参加してくれない等の話もあった。

研修部の相原さんには今回も大変お世話になった。白老に朝集合のため、私は前泊必要。遠軽から旭川通過との話から相原さんに同乗をお願いする。研修会のきめ細かい、事前の計画、下見、そして当日の全行程の運転ありがとうございました！

林　祐子

久しぶりに全道研修会に参加しました。全行程雨にあたらず、どの研修地でも有意義な時間を過ごす事ができました。

今回は、特に大沼国定公園では水生植物を、厚沢部町土橋自然観察教育林では道南ならではの植物を、そして黒松内の歌才の森ブナ観察林ではブナの木を観察することができ、居住地（道央）と研修地（道南）の植生の違いを感じられました。

土橋自然観察教育林では、富塚さんの案内で、見本林の木々やヒノキアスナロ（ヒバ）などについて、興味深く観察しました。特にバンクスマツの松ぼっくりは、松脂でしっかりとくっついているが、５０～６０℃の熱を感じると開く（山火事などで加熱されると開く）という解説は面白かったです。また、ヒノキ・ニオイヒバ・ヒノキアスナロの匂いの違いを、体感させて頂きました。

歌才の森ブナ観察林では、黒松内町ブナセンターの斎藤さんの案内で、ブナ林を観察しました。人の居住地であった場所の森の再生（植林を行おうと行うまいと、森は種を供給する環境が周りにあれば、自然とその場の環境にあった森に還って行く）の話や、森の更新の話などは、とても勉強になりました。また、森の見方について、（この木はどんな成長をしたのか？またどう成長したいのか？、この場所は湿地？乾いている？、風は？など）教えて頂き、今後の観察会ついても考えさせられる時間となりました。

何よりも日頃色々な場所で活躍されている皆様の貴重なお話を伺えた事が、良かったと感じています。研修部長の相原さんを始め皆様ありがとうございました。

久瀧　雅恵

今年の全道研修は種々の検討の結果、2 泊 3 日の日程で以前の道南研修に歌才ブナ林を加えて行われた。

私は他地域の観察会参加は難しく全道研修会を楽しみにしている。自身が「春の花を見よう」をテーマに観察会を行っていることもあり、必要と自身の興味も相まって私の眼は、今目の前にあるものに集中しがちである。研修地の道南は、トドマツの天然分布の南限であり、土橋自然観察教育林は一部トドマツの母樹林に指定されている。また、ここはヒノキアスナロ（ヒバ）の北限でもある。ヒノキやヒバの香りの中斜面を登って行く。見慣れない葉のキッコウハグマ、数が増えつつあるというコアツモリソウ、イチヨウラン、スズムシソウと出てくるが、半ばにして私の体力がつき迷惑をかけた。

最終日は黒松内の歌才ブナ希少個体群保護林。ブナはすでに若い実を沢山つけていた。黒松内低地帯は植物分布の一つの境界線で、ブナ自生地北限地帯と言われている。温帯林を代表するブナが津軽海峡を越え、函館付近に上陸したのが 6000 年前で、歌才付近に到達したのは 1000 年前とパンフレットにある。如何にして己の分布を広げるか。説明を聞く樹木間の攻防はドラマチックでさえある。普段は手元ばかりみているが、図鑑や他の情報からは得られない、時間の経過や空間のありよう、地球規模の気候の変化や人間との関わりなど、目に見えないものを改めて意識出来た研修だった。少人数ゆえの、悩みや心情を吐露する機会も、蘭越の大表さんの参加を得て美味しい研修を受けることもできた。

最後に、研修部長の相原さんの丁寧な実施計画、頭がクラクラするほどの厚い資料、そして全行程通しての車の運転などのご苦労に対し心より感謝を申し上げます。リュックに一つ、バンスクマツの球果がある。自身の樹脂で固く閉じたままで。

第 588 回 NACS-J 自然観察指導員講習会・北海道実施報告

～意欲的な参加が目立った自然観察指導員講習会～

新しい指導員を養成する『第 588 回 NACS-J 自然観察指導員講習会・北海道』が 2022 年 6 月 18 日（土）～19 日（日）の 2 日間、札幌市の南区真駒内の北海道青少年会館「コンパス」で全道各地から 25 人が参加して開催されました。

この講習会は、通常、隔年ごとに開催されるものなのですが、前回は 3 年前の 2019 年に小樽市で開かれましたので、本来は昨年度に開催する予定でした。

しかし新型コロナウイルスがその後発生したため開催できず延期して、本年度に入ってようやく開催することが出来ました。

主催は(公財)日本自然保護協会が、また共催は北海道自然観察協議会がそれぞれとなって行われました。参加者は、府県から参加した2人を除く23人が道内から参集されるなど、殆んど道内勢で占められました。

2日間にわたっての講習会でしたが、参加者の中には既に自然観察に取り組んでいる方々もかなりいて、講師の話を終始熱心に受講されていました。さらに講習会のメインとなっている受講生が行う「自然観察会」も、それぞれ独自のポイントを絞ったテーマで意欲的に行うなど、非常に実りある充実した講習会となりました。なお、参加者の年代は、一部、年配の方々も見られたものの、20～40代の若い方々が多くて、今後の活躍が大いに期待されるところとなりました。

第1日目は、主催者並びに共催者からの開講並びに歓迎挨拶が行われた後、野外実習として会館ホール横に参集して「自然観察の視点～森を通して自然のしくみを見にいこう～」と題して講習が行われました。

この講習は、森の自然を学ぶのではなく、森の観察を通して自然の見方を学ぼうというもの。佐野由輝林野庁/北海道自然観察協議会／NPO法人グリーンパパプロジェクト理事から受講生全員にスケッチブックが渡されて森から約50mほど離れた場所から森全体をスケッチをするように指示が出されました。その後、受講者がそれぞれ描いた絵を互いに披露・批評し合って、自分では気づかない点を学び合いました。その後、2回にわたってさらに森に近づき、その都度、スケッチを描き、互いの批評を行うことを繰り返しました。

この後、2班に分かれて森の中に分け入って、様々な植物、樹木の存在を確認するとともに森の世代交代(更新)、落ち葉の変化、森林土壌微生物の確認などをそれぞれ行いました。とくに落ち葉の変化では、キッチンペーパの上に林床に積み重なっている落ち葉を上から順に採取して並べ、どう変化してゆくか各自で確かめ合いました。

この後、一旦、会館会議室に戻り午後の部に移り、途中にNACS-J並びに北海道自然観察協議会のPRと参加者の自己紹介を挟みながら①「自然の保護～生物多様性の保全と私たちのくらし～」(講師佐野由輝)と②「自然の観察～自然観察会と指導員の役割～」(同前田修之自然観察指導員佐賀県連絡会会長)について、それぞれ講師から講義が行われました。

両講師ともパワーポイントを駆使しながら、各地の先進的な取り組み事例を紹介して説明するなど大変、判りやすく、かつ説得力ある講義が行われました。

2日目は本講習会の狙いでもある参加者たちが今後、指導員となって実施していくことになる自然観察会の開催の仕方についての講習と実践がそれぞれ行われました。

最初に野外実習②として参加者を3班に分けて、NACS-J講師等が、場所を移動しながら自然観察会でのテーマを探す「自然観察の素材～こんなテーマで自然を観察しよう～」の講習が行われました。

この後、これらテーマ探しの講習を受けて参加者たちは、再び講義室に戻って実際に自分の気に入った場所で、どのようなテーマで観察会を行うか企画検討する野外実習③の「自然観察会の企画～自然観察会の企画から展開を考えよう～」に取り組みました。

これら企画に当たって参加者たちは、昼食を挟んで、自分が実施しようと思う場所に実際に行って、観察会のポイントを何処に絞ったらよいかいろいろ思案されていました。

最後にこれら野外実習の集大成とも言うべき参加者自身が企画した自然観察会を７班に分かれて、NACS-J 講師はもとより北海道自然観察協議会の先輩指導員らが、リーダーとなって見守る中で実際に実施する野外実習④「自然観察会の開催～実際に自然観察会をやってみよう～」が行なわれました。全ての講習を終えて参加者、事務局スタッフら全員、会館講義室に戻って、講師からの講評を頂いた後に閉校式に移り、改めて参加受講者が正式に自然観察指導員になられたことが報告されました。

この後、会館前で集合記念写真を撮って、互いの今後の健闘を祈りながら散会しました。（村元健治）

2022 フォローアップ研修会実施報告

2022. 9. 3 研修部

1. テーマ　「ゼロから始める身近な自然観察会」
2. 日 時　２０２２年８月２７日(土) ９：４５～１３：１５
3. 場 所　余市水産博物館周辺
4. 講 師　吉田陽子(2019 指導員登録)
   協 力　鳥澤哲子(余市町在住会員)
5. 参加者　７名(養成講習会受講者限定：４名、スタッフ：３名)
6. 研修事項 ＜自然観察会実施のポイント＞

(1) 自然観察のメニューモードを広げる

自分から探索モードのスイッチを入れないと、視界に入っていても「見えてこない！」
‥‥もっている観察モードが豊富であるほど、自然観察する視点はより多角的になり、相互の結びつきも加わって飛躍的に「見えてくるもの」が増す、と言われている。

(2)観察会準備ポイント‥‥〈振り返り交流で、共通把握〉

①幾つか観察候補地となるフィールドを設け、定期観察する。

②「不思議だなぁ・面白そうだなぁ」など、興味の湧く対象を普段から探る。

③探る対象は広く浅く、幾つかの得意分野をある程度深く調べ・探る。

④質問されて、解らない場合の対応を身につける。基本は率直に解らないと返答すること。
次の対応は、不明な素材でも解る「特徴的な形質」を、その場で一緒に観察し、「○△□の類」と言うことは、「○○形質・特徴があるから解るが、明確な名称や特徴までは解らないので課題にします」という進め方にする。強引に話題をすり替えたりしないことが大切である。

⑤一般観察会の場合、観察会テーマに合わない目的を持って参加する方が時としていることも想定し、はじめる際に、観察テーマと注意事項を徹底すること。協力指導員の協力を得て早めに個別対応をすることも場合によっては必要である。

⑥危険箇所の事前確認と対処を協力指導員間で共有する、トイレ確認、必要時私有地入地許可を事前に得ること、傷害保険に必ず加入し、参加者の個人連絡先を事前把握すること。

(3)実際に観察会を実施する(展開)ポイント

①自然素材(トピック)を選択して、観察テーマをもつ。

②観察テーマに沿って、展開を見通す‥‥‥観察展開を一文にしてみる。
例「春気温が上がり、ウグイ(魚)が河口遡上しはじめると、カワウの繁殖が始まる」

③調べる(テーマに沿って、文献やデーター検索、先輩指導員に尋ねる)。

④参加者の背景(経験・職業・健康)や年齢に応じて展開を工夫。

⑤展開の工夫(時間配分・分担：解説・観察・移動・休憩・参加者の参画など)
(五感の活用、解説図やフリップの活用、定期観察の結果素材変化を比較提示等の工夫。

⑥提示素材が環境指標としてどんな価値があるのか、テーマとどのような関係を持つのかなど、テーマ・素材の意義や価値付けを参加者へ解説する(**意外と重要**)。

⑦目標：参加者に一層自然への興味･理解を醸成する準備を進め、必要時、協力者・関係者(機関)へ事後報告(謝辞)を行い、協力者(関係機関･保険等)からの助言を次回へ活かす。

7．22F-UP 研修会を終えて　　〈感想アンケート等より〉

(1)参加者‥‥‥振り返り

①研修会を計画して頂いた講師の先生方、本当にお疲れさまでした。そして、有り難うございました。テキストを読んで学習するよりも、やはり実体験を通して、五感で学習する方が生きた知識になると強く実感しました。

②今後は、できるだけ多くの観察会に参加して、スキルアップと共に自分なりのビジョンを作れたらなと思います。

③社寺林を観察することができて、面白かった。

④自分の知らない様々な植物に関する情報を勉強できた。

⑤事前準備が重要だが、とても大変だと思った。

⑥多様な参加者に対応した説明は難しいと改めて思った。

⑦オホーツク管内・遠軽町内のガイド研修・自然観察会しか参加したことが無く、管外に出るのは初めてだったのですが、同じ植物であったり、見たり、聞いたりしたものがあり、300km以上離れているのにも関わらず「ある」と云うことに驚いた。

⑧もっと他のいろいろな観察会に参加してみたいと思いました。

⑨オオバコなど、足下に生えている普段「雑草」として素通りしてしまう植物についても説明があり良かった。

⑩短い距離・時間の中でも、観察ポイントは、沢山あることに気付かされた。

⑪「分からない」ことにも、曖昧に答えず、一緒に考えてもらえて嬉しかった。

⑫最後の振り返り(交流)がとても丁寧で、すごく勉強になり、観察会のポイントを教えてもらえて本当によかった。スタッフの皆様、準備から実施、たいへん有り難うございました。

(2)講師・協力者・・・・・振り返り

①紹介したいテーマ、私の場合は「**植物ってすごい**」を、他の生きものや人間とのかかわり、その他、地質の成り立ちや気候と関連づけて話せるようにしたい。(講師アンケート)

子供の頃からよく訪れていた場所で、まさかおばさんになってから自然観察会をやるとは、人生何が起こるかわかりません。定点観察を始めて、この場所に息づく沢山の命の躍動を観て感動しました。そして観察会参加者の方から、この場所が開発による撹乱を経て、社寺林に先駆種の植物が混合し成長した、里山的要素を持つ大変面白い場所だとの御指摘があり、改めてモイレ山の自然の持つ大きな価値に気づかされました。

今回の観察会が成功だったとするなら、それは勿論今回アドバイザーを勤めて下さった鳥澤さんという素敵なモイレ山マスターに出逢えた事が大きな要因です。地元の方々の信頼厚い鳥澤さんを通じて、観察路にあるニセアカシアを蜜源として養蜂を営む地元の方々を御紹介頂き、現地へ行って採蜜作業を体験しました。幼虫を育てるために、数千匹の働き蜂によって36℃程に保たれた巣の中に手を入れた時の暖かさはきっと忘れないでしょう。

鳥澤さんや養蜂家の方々、観察路の神社の宮司さんなど、今回の観察会をやらなかったら知り合えなかった様々な方々と知り合い、交流を持てたことが私にとって最大の喜びです。

開催に当たり遠方より何度も来余頂き、関係機関との調整に御尽力下さった研修部長である相原さん、下見に駆けつけ内容を深める視点をさりげなく御教示下さった小樽の日下部理事はじめ、拙いガイドの中、主体的に観察会にご参加頂いた皆さんへ、深く感謝致します。(講師振り返り)

②無事終了できて何よりでした。参加者の皆さんが「楽しかった」と言ってくださり、とても嬉しく思いました。(協力者アンケート)

今回、開催場所が自分の住んでいる余市町ということで、何かお手伝いが出来ればと思い、協力会員として参加させて頂きました。協力、サポートという立場ではありましたが、私自身が今まで観察会を担当した経験は無く「ゼロから始める」そのものでしたので、やはり観察会当日まで大いに不安がありました。

けれども、信頼出来る講師の方々や、下見の際に頂いた『研修会のしおり』が心の支えとなってくれました。参加して下さった皆さんも、心強い仲間とともに楽しく自然を観察してほしい、と心から願っています。(協力者振り返り)

8．研修部反省

(1) 新規観察会をはじめるポイントについて、始めて間もない指導員が実演研修の講師を担当し、テーマの具現化に努めた。

①観察路に群生するクルマバソウのハーブ活用（クマリンの効能）の解説など、事前下見観察と五感刺激実演を伴う紹介。

②フリップを用いた簡潔な解説。

③オオバコやイノコヅチなど、人間や動物による種子散布等、身近な植物の特徴を紹介。

④ヒメアオキなど日本海側の積雪下常緑樹種の紹介。

⑤ウワミズザクラ（後志方面～北限域）とエゾノウワミズザクラの生育境界の紹介。

植物名の識別の他、植物の生きる戦略等について踏み込み、土地条件や昆虫や野鳥を活用した繁殖戦略など、身近な植物について取り上げられていた。

自然の魅力の一端が、一文で表現すれば、「植物ってすごい！」をテーマとして、具体的に観察会の中で表現されていたように感じられた。

(2) 引き続くコロナ禍感染状況や参加者要件、また集中豪雨による落石で、当初予定した観察路で通行止めが発生し、止むを得ず観察路を直前に変更したり、延期時の参加者都合の事前集約など、諸事制約があり、参加者は小数となったが、振り返り交流及び反省アンケート等によれば、所期の目標は達成し得たのではないかと考えている。

イノコヅチ

クルマバソウ

アカバナ

研修終了

観察部からのお願い

『来年度観察会企画募集について』

新型コロナウイルスの影響は、感染者の増加、減少を繰り返し、収束が見通せない状況です。

そんな中、今年もまた来年度の観察会企画募集の時期となりました。観察部では、全道各地の皆さんから、来年度の観察会企画を広く募集します。

ついては、今年度観察会予定表に準じ、「月日」・「観察地」・「テーマ」・「集合場所・時刻」・「交通機関」・「参加費」・「連絡先」等の各項目を記載し下記宛て郵送、またはメールにてお送りください。

コロナ対策として、定員を設ける場合は申込方法など詳細を合わせて記載して戴くようお願いします。「参加費」について、特に記載のない場合は200円としますので、ご了承ください。
また、下見日程の決まっている観察会については、下見日も併せてお知らせください。「観察会予定表指導員用」に記載いたしますので、よろしくお願いします。

募集期間は、**2023年1月31日**までとし、観察部会にて日程調整などの検討を加えた上で、来年2月の理事会に提出する予定です。なお、追加および訂正は、**2023年2月末**まで受付します。

観察部　山形誠一　　〒064-0946　札幌市中央区双子山1丁目12-14
Mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp、Tel 011-551-5481、携帯090-6267-4961

出版物の紹介

谷口勇五郎著『自然を訪ねて』

苫小牧周辺をフィールドに自然観察会を行って、その成果を冊子としてまとめて来た苫小牧在住の谷口勇五郎北海道自然観察協議会指導員が、このほど標記出版物を自費出版しましたので、紹介します。

今回のものは、本協議会はもとよりボラレン、白老町中野氏のミニコミ紙、並びに苫小牧健康友の会等の会報に掲載してきた6～7年分のものをまとめたもの。観察会を主宰して出会った植物、樹木、動物、昆虫などの紹介・解説はもちろんのこと札幌等の他地区開催の観察会参加の様子なども掲載されています。

アキタブキから始まってサクラまで計61項目にわたるバラエティに富んだ項目について、氏自身が描いたカット付きで紹介しています。B6版、123Pという非常にコンパクトな装丁となっています。
頒価600円送料180円　ご購入希望者は、谷口さんに直接電話(0144－73－8912)してお申込みください。

（村元　健治）

（編集後記）

コロナ対策をされながらの観察会は徐々に増えてウオッチングレポートとして久しぶりに多く掲載できました。Withコロナ時代の観察会開催が定着し始めたのかもしれません。

今号は、研修会・講習会実施報告が充実しています。全道研修会では、受講された方々からの報告を紹介することができました。当日参加することができなかった皆様にとっては参考になることは多いのではないでしょうか。

ところで、今号編集にあたり原稿が多く集まり、当初24ページでの発行を検討したのですが、予算の都合で従来どおりのページ数での発行となりました。このため、大表理事からの調査報告、村元理事からの「自然に遊ぶ～子供の頃の遊び～（3)」、一部のフィールドニュースは次号に持ち越し、その他報告書の写真や報告文は一部カットにならざるを得ず大変残念でした。次号をどうぞ楽しみにお待ちください。

（田守）

自然観察 2022年10月15日/第138号　年3回発行
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれます)
発行　北海道自然観察協議会
編集　北海道自然観察協議会編集部